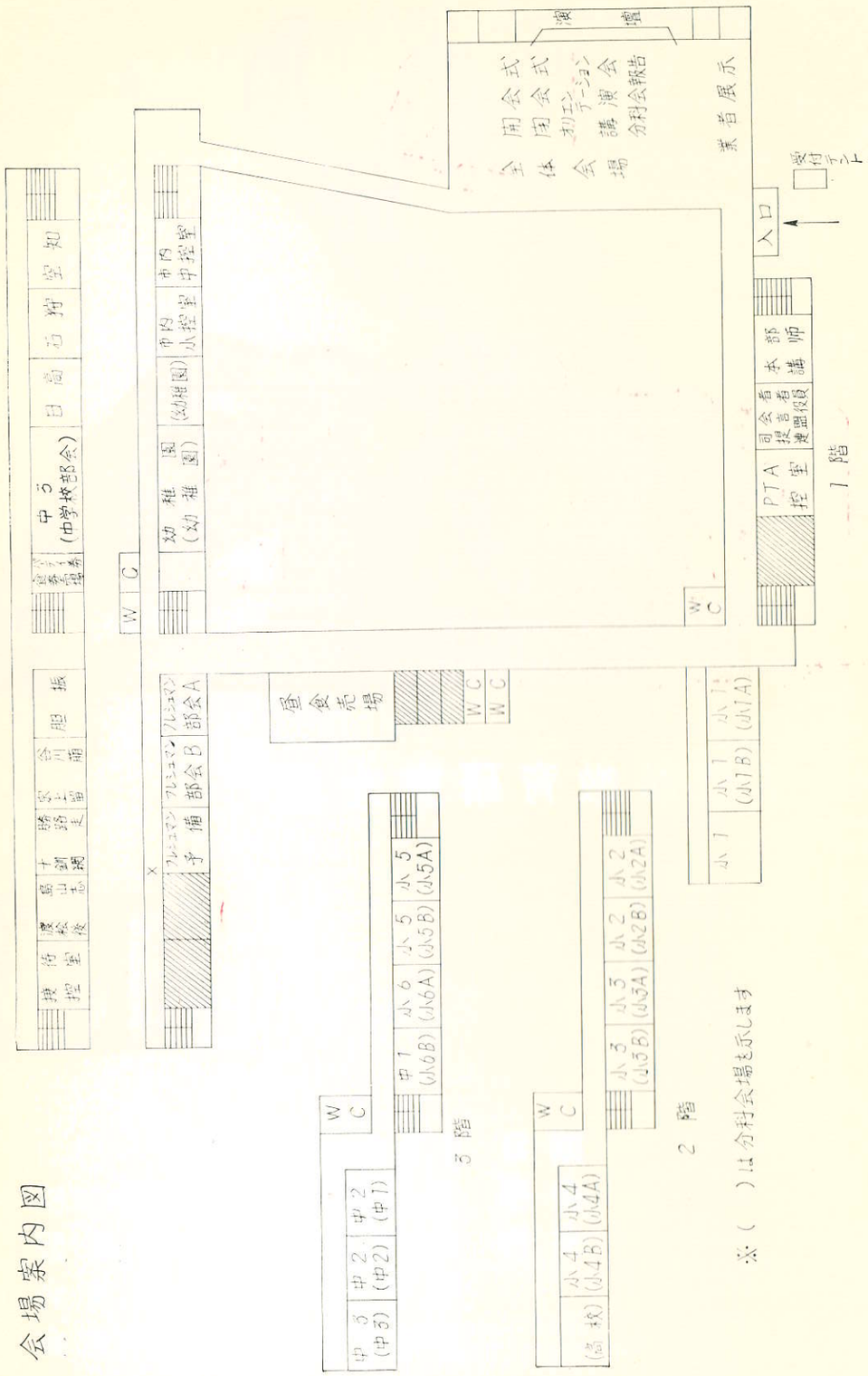
全道造形教育研究大会

18

期日　1968. 7. 30～31
会場　苫小牧市立苫小牧東小学校
主催　北海道造形教育連盟
　　苫小牧市教育委員会
　　苫小牧市造形教育研究会



大　会　日　程

日　時	9:00	9:20		11:00	11:10		12:00	13:00		17:00	17:30
第1日 7月30日（火）	受付	開会式	パネルディスカッション		休けい	特設公開学習	昼食	分科会			パーティー
第2日 7月31日（水）	受付	司会者打合せ	分科会				昼食	分科会報告	講演	閉会式	
								13:20	15:00	15:30	

◆研究主題の経過と開催地

北海道造形教育連盟

1. 情操教育振興の一環として本道図工教育の進展を図るため。（26年）札　幌　市
   ① 各地に於ける図工教育の実態に立った共通的問題の究明。
   ②全道小学、中学、高校、大学教員の団結を図り組織の結成をはかる。
2. 美術教育の新思潮である創造主義、美術教育の諸問題について。（27年）札　幌　市
3. 美術教育の指導とは何か。（28年）旭　川　市
4. 図画工作教育実践上の諸問題について。（29年）函　館　市
5. 図画工作教育における学習指導上の問題点の解決。（30年）釧　路　市
6. 造形教育においてつくり出す力を養うにはどうしたらよいか。（31年）札　幌　市
7. のぞましい造形教育における具体的諸問題について。（32年）室　蘭　市
8. 図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか。（33年）小　樽　市
   ……現場の実践を通して……
9. 新段階における造形教育のあり方。（34年）帯　広　市
10. 本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見よう。（35年）網　走　市
11. 子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え、何をすべきか。（36年）滝　川　市
12 子どもが生活をみつめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。（37年）名　寄　市
13. 子どもが生活をみつめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。（38年）余　市　町
   ① 幼小中高のつながりに立ち学習内容の系統づけをしよう。
   ② デザイン、工作領域のたちおくれについて考えよう。
   ③ 子どもの生活と造形活動のつながりを作品を通して考えよう。
14. 子どもの造形能力とは何か。（39年）札　幌　市
   ① 発達段階に立つ学習内容のたしかめ。
   ② 子どものデザインとは何か。
15. 子どもの造形能力とは何か。――教材の面からのたしかめ――（40年）稚　内　市
16. 〃　――指導の構築はどうあるべきか――（41年）室　蘭　市
17. 指導の構築を具体化する　――新しい教材と新しい授業づくり――（42年）函　館　市

目　　次

大会日程　研究主題の経過と開催地……1
研究要項……2
開会式　パネルデイスカツシヨン……3
公開学習一覧　指導案……4～23
分科会……24
講演……25～29
造形教育における構造と過程　閉会式……30～32
役員一覧表……33～34

第18回全道造形教育研究大会 研究要項

研究主題

「指導の構築を具体化する」
—教材の新しいとらえかた—

本部研究部長　高橋栄吉

昭和45年度本連盟の主題は表題のように、昨年にひきつづき継続研究の深化をはかるものである。指導の構築をなすために、どんな教材をどのようにしてゆくべきかの課題である。

研究経過のながれをみるとここ数年間は、指導の構築をはかるために目標，内容，方法指導のめやすとなる能力、系統を発達段階をおさえて、昨年の大会にこれらを集大成しその関連性をあきらかにしたのが指導の構築をめざしての第一集であった。しかしこの函館大会においてもりあげられた具体化のなかにも、その指導の実際において、共通の基盤に立ついくつかの要件があったのであるが、本年はそれをぬき出しきびしいく検討されなければならないことがあきらかになってきたわけである。

すなわち教材設定のありかたと指導過程の中におさえられなければならない条件のいくつかが脚光をあびるわけであるが、こゝでもっとも大切なことは、指導の構築は一定の方程式や公式によってなされる一般化、典型化をはかることによって出来る性格のものではないことである。生きた指導でなければならないことはいうまでもない。したがってこどもの実態からこのまゝでは好ましくない。このようにいかなければならない。そのためには、なにをどのようにしていかなければならないかの必要性を切実感及価値観がうまれてくることは当然であ。るしたがって指導の様態は学級によって、一人一人のこどもによってちがうわけである。こゝに教師の創意がものをいうわけである。一定のレールを走ればこどもたちにこのましい人間形成が個性的につくられるものでないことがいえるのである。したがって主題のねらいはパネルデスカッシヨンをとおしたオリエンテーシヨンもこの教材をとうした人間像にふれ、その指導内容にふれ方法編に及び、実際例にふれて具体的にとらえられるように、分科会16にわたって二日間の公開授業を生きた素材とし具体的な実践発表をとうして、教材の新しいとらえかたのよりどころをつかんでもらえるように主題と研究大会の運営の一体化をはかるべく一貫性をぜひ密にしたいと考えているのである。指導の構築をよりあきらかにしていくためには、パネルに参加するメンバーも現場のきびしい実践に対決している先生を矢表に立ってもらい会員との交流においてもその方向づけを有効たらしめたゝと念願したのである。

分科会は以上のオリエンテーシヨンをきめこまかく授業、提案、会員の具体的体験を出しあって教材の基本的性格、教材構成の視点、実際指導の留意点を柱にどの分科会も学年単位にしたわけで、そこから発達の段階をさらに深化発展し、一年間における指導のありかたに手がかりをつかみたいと考えているのである。

指導の構築第２集は、こうした研究に有効に活用されるよう具体例をたくさんもったつもりである。そしてその実践者がその発表にあたるように構成して、どこまでも生々しい体験と指導過程がきめこまかくわかるようにはこんでいきたいと考えて司会者との連絡も十分行なっているしだいである。

なお記念講演も千葉大の森佳一先生にも事前にごれんらくし主題にせまる方向に実際的な面をとりいれ新指導要領の改訂の点にもふれていただき指導の構築をより深めていただき各分科会にもまわっていただき有益な御助言をおねがいしている次第である。

本大会が累年ももりあがりをみせみのり多きものにしていくよう努力していたいと念願するものである。

（札幌市立藻岩小学校長）

第18回「苫小牧」大会を迎えて

北海道造形教育連盟委員長　赤石武士

常に幼ない道連れのことを脳裡にえがきつゝ熱情を盛上げて奥深い道を求める我等同志の研究大会も、いつの間にか回を重ねて第18回を苫小牧の地に迎えることになりました。

時恰かも開道百年に当り、道民の各階各層に於てもこれ迄の業績を反省しつつ新しい世紀を開拓のすべき時期を迎えそれぞれの立場に於て締めくくりが行なわれ、そして後図を企画されつつあるようであります。私共造形の分野を手がかりとして幼児から児童へ、児童から生徒へと伸びやかに情操豊かな人を育てるべく志を同じくする全道の同志も此辺で一応これ迄の歩みに対し足もとを見つめ、たどり来た道を振り返り、そして今置かれている環境と将来を展望することによって新しい道を求めて歩み出す時が参ったのではないでしょうか。

18才といえば人生に例をとっても寄り掛りの生活から漸く脱却し一人立ちを目前にし、前途の方角も大体定まり希望に胸をふくらませて若々しく突き進む時代であります。そして私共同志の研究もちようど此の峠にさしかかったかに思われます。思えば連盟新発足の当時から今迄を回顧致しますと、教育理念と之に伴う指導形態の変遷、教育資材の改善普及時代感覚のうつり変りと其の波及による環境の変化など、その時、其の時代の方向に処して我々も模索し究明し、之を現場に定着させる努力を続けて来ました。本部の研究部を中心として造形理論を縦糸とし教育理論を横糸とし之を人間性の動力によって織り成した指導体系。そして各地の大会では現地の会員の努力によって之を現場におとす試みが行なわれました。

さて今回は新興の意気のみなぎる苫小牧の皆様の創意にみちた企画によって此の現場定着をいよいよ確実にし、これを足場として更に新しい教材を求めて底知れぬ此の道をつき進むことになりました。私どもの営みが一応の形を整えつつあるとは言うもののこれまでにも多くの宿題を抱え将来にも多くの難問を残して居ります。特に最近稍もすれば人間性を度外視し、とげとげしい単なる理論と理論、力と力との争に走ろうとして殺気立ち易い世相を環境として受入れざるを余儀なくされる作今です。

此処からの脱却は豊かな情操を具えた人間性の育成という長く、しかもたゆまぬ努力以外には考えられないのではないでしょうか。年に１度しかない全道の同志の集りはこんな意味でも張り合いがあると思います。幸い昨年迄もそれぞれ現地の教育委員会の力強い御協力があり、又今年からはこれ迄の実績が認められ道教委も後援に踏切られ種々の便宜を与えられました。

皆さん此の２日間私共はあらゆる規制から解放され自分自分をぶちまけ合って目差す彼方に一歩一歩と踏み出そうではありませんか。

終りにのぞみ、毎年の大会に際し物心両面にわたり寄与されて居られる各協賛団体の方々に感謝申し上げ、御挨拶に代えさせていただきます。

開　会　式　7月30日（火）（9.00～9.20）

○開式のことば
○あいさつ　第18回全道造形教育研究大会長　赤石武士
〃　運営委員長　清水石政雄
○祝　辞　苫小牧市長　大泉源郎
苫小牧教育委会教育長　森田勇
○講師の紹介
○日程の連絡
○閉式のことば

パネルデスカツシヨン　7月30日（火）（9.20～11.00）

指導の構築

司会者　伊東将夫（札幌平岸小）　池本良三（苫小牧東小）

荒木アイ（児童画研究所）	森川昭夫（札幌附属小）
辻悦平（札幌大通小）	伊藤恵（札幌東園小）
遠藤久男（札幌香保小）	佐藤吉五郎（札幌幌南小）
種市誠次郎（札幌発寒小）	吉田広仕（札幌美香保中）
成田一男（札幌豊平小）	斎木杲一（札幌伏見中）
佐藤圭（札幌東札幌小）	森健（札幌日章中）
松島輝男（札幌西小）	土岐禎次（札幌北高）
佐々木理温（札幌元町小）	日野常子（苫小牧市立幼）
側瀬宇太郎（札幌明園小）	小岩俊（苫小牧大成小）
金井秀男（札幌東小）	片桐勉（苫小牧啓北中）

第 1 日 7月30日 (火)

特設公開学習 (11.10～12.00)

学年	領域	題材	授業者	
幼稚園	絵画	汽車にのつて	日野常子	苫小牧市立幼稚園
幼稚園	製作	うごくのりもの	藤波明子	いずみ幼稚園
小 1	デザイン	どうぶつの親子	佐藤嘉子	苫小牧東小
小 1	版画	紙はんが	内潟光尚	苫小牧若草小
小 1	工作	足のたくさんある虫	中村真知子	苫小牧大成小
小 2	デザイン	虫のえんそく	船着昭弘	苫小牧東小
小 2	描画	お話のえ	金子京子	苫小牧東小
小 3	描画	お話のえ	清野恒夫	苫小牧緑小
小 3	ちようそ	おもしろい魚	岡崎光輝	苫小牧大成小
小 4	デザイン	身につけるかざり	和田弘	苫小牧東小
小 4	描画	港	千葉哲	苫小牧西小
小 5	ちようそ	牛の頭	小岩俊	苫小牧大成小
小 5	描画	工場とそのまわり	長沢晃	苫小牧西小
小 6	デザイン	楽しいちようちん	鈴木誠治	苫小牧東小
中 1	デザイン	樹木のポスター	福井宏	苫小牧東中
中 1	描画	想像による世界	坂東軍治	苫小牧光洋中
中 2	ちようそ	頭部直づけ	川畑盛邦	苫小牧和光中
中 2	デザイン	前庭のレイアウト	沼田卓	苫小牧弥生中
中 3	版画	港のようす(共同製作)	三上保	苫小牧啓北中

学習指導案

苫小牧いずみ幼稚園
指導者　藤波明子

1. 題材名　動く乗り物を作つて遊ぼう（製作）

2. 題材について

子供は動きそのものであり、一刻もじっとしてはおられない。遊びの為にものを作り作ったもので遊びながら感覚的な経験を広めて行く。

材料や道具でものを作りだす可能性がわかるかもしれない。

3. 学習のねらい

動く乗り物を作って遊ぶことにより子供の喜びと満足を与える。

4. 計画

(1) 車あそび。
(2) 貨物列車を見る。
(3) 手足の動く人。
(4) 動く乗り物を作って遊ぼう。　動く乗り物をつくる。　3時間（本時含）

5. 本時の指導

イ. 目標

○ 乗り物を作る。
○ 作った乗り物を補強したり改良したりして遊ぶ。

ロ. 準備

木箱、木片、車、大工道具一式、綱など。

ハ. 指導過程

	指導のねらい	幼児の活動	指導の要点
導入	今日の仕事をはっきりさせる。	グループ毎に話し合う。	どこにどんな材料用具を使えばよいか考えさせる。
展開	相談し合ったり、工夫し合ったりする。 活動を盛んにする。 補強 改良	・引く押す乗るの三条件を考えていろいろなものをたして行く。 ・3人の仲よく乗りまわして遊ぶ ・遊びながら修理補強したり改良したりする	三条件を考えさせる。 交互に乗るよう配慮する。
整理	生活のけじめを感じとらせる	遊びの反省 用具、車などの後仕末	後仕末をきちんとするようしむける

学　習　指　導　案

苫小牧市立苫小牧幼稚園
指導者　日野常子

1. 題材名　　機　関　車（絵画）

2. 題材について

動きある乗りものはこの期の幼児にとっては誠に強い関心と深い興味の対象である。

見たり聞いたり乗ってみたい乗り物（機関車）を思いのまゝ絵にする喜びを味わわせる。

3. 学習のねらい

見てきた感動を大胆に表現させたい。

4. 計　　画

○　プラットホームに行って。

5. 本時の指導

イ．目　標

○　経験を意欲的にかかせる。

○表現の面白さを友達同志で話し合う。

ロ．準　備

画用紙、絵の具、絵筆及びかん、新聞紙、布など。

ハ．指導過程

	指導のねらい	幼児の活動	指導の要点
導入	みた機関車を想起させ表現意欲を高める。	みてきた機関車について話し合う。	話し合える様にする。
展開	表現させる為の工夫をさせ大胆に描かせる。	絵を描く。 自由に絵の具を使用する。	太い線、細い線に気づかせる
整理	友達の絵のよさに気づく終わりまでやらせる。	友達の絵も見る。 あとかたづけをする。	かけたよろこび。 グループでかたづけさせる。

学　習　指　導　案

苫小牧市立苫小牧東小学校
第 1 学 年　　38名
指導者　佐藤嘉子

1. 題材名　　どうぶつのおやこ（デザイソ）

2. 題材について

○　低学年の子どもたちは、魚、鳥、虫その他の動物に、非常に興味をもっているし、好んで飼育する子も多い。また紙をまるめて、ちぎってひらたい形から、何かを連想する時なども、その傾向が強い。

○　いままで動物をテーマにして粘土、描画、工作、共同製作などをやってきたが、ここでは、ちぎり紙のおもしろさを通して、基礎的なデザイン感覚をやしないたい。

3. 学習のねらい

動物の親子を、くりかえしてはることにより、大小のリズム感をやしなう。

4. 計　　画

○　にぎりっこ、あてっこ	（粘土遊び）	彫	1時間
○　どうぶつをつくろう		彫	1時間
○　きれいなとり		描	2時間
○　かみでつくろう		工	2時間
○　どうぶつのくに	（共同製作）	描工	2時間
○　どうぶつのおや子		デ	2時間　（本時½）

5. 本時の指導

イ．目　標

○　親子のどうぶつを、ならべかたを工夫しながら、楽しくはる。

○　のりづけの指導。

ロ．準　備

○　色画用紙（黒）、色紙、のり、のり下紙、お手ふき。

ハ．指導過程

	指導のねらい	学習活動	指導の要点
導入	○興味の喚起	○本時の学習について話しあう。 つくりたい動物のイメージを呼びおこす。	○動物の親子をくりかえしてはることにより、大小のリズムがうまれるようにしたい。
展開		○表現方法の説明。 色紙をちぎってはる。 ○台紙にはる。 のりのつけかたに気をつける。 ○ならべかたを工夫しながら楽しくはる。	○ちぎり紙のおもしろさ。 ○はじにつける。 べったりつけない。 ○思ったように自由に表現させる。 ○個別指導に重点をおく。
整理	○ならべかたの工夫しているところなど	○2、3の作品について話しあう。 ○作品の提出とあとしまつ。	

学　習　指　導　案

苫小牧大成小学校
第 1 学 年　35名
指導者　中村真智子

1. 題材名　足のたくさんある虫　（工作）

2. 題材について

○あき箱は、はじめから立体であり、1年生の児童には特に親しみやすい材料である。その素材を利用しての接合は、多種の工夫を必要とする。又、足をたくさん作る作業は虫への驚異感を新たにし、創造する喜びを増すものであろう。

3. 学習のねらい

○あき箱の立体を利用し、紙を切ったり、まるめたり、おったりしたものの接合のしかたを工夫し、楽しみながら創造する喜びを味わわせる。

4. 指導計画　（7日教材）　9時間

四つ足の動物 …… 2時間　（新聞紙をまるめて）
水ぞくかん …… 〃　（袋をつかって）
虫のきもの …… 〃　（デザイン）
おかあさんの足 …… 1時間　（粘　土）
どうぶつ …… 〃　（　〃　）
足のたくさんある虫 …… 1時間（本時）（箱と紙をつかって）

5. 本時の指導

イ. 目　標　3に同じ。
ロ. 準　備　教師、生きた虫。
児童……あき箱、色紙、つつみ紙、接着剤、はさみ、セロテープ、ホチキス、新聞紙、手ふき、パス類。
ハ. 指導経程

	指導のねらい	学習活動	指導の要点
導入	観察 意裕づけ	• 虫の足のつき方、動きを観察する。 • 足のたくさんある虫を作ることを知らせ、話し合いをする。	• 児童の感動を直接、又具体的に呼びおこす。
展開	• 独創性	• どんな虫にするかを考え、身体になる箱を決める。 • 足をとりつける。 • 足を工夫する。	
整理	• 接合の工夫	• 接合の仕方を工夫する。 • 色がみ、パス類で虫をかざる。	• 作業に個人差があるので、時間的に余裕のある子のみ、させたい。
	• 反省	• 作品をみせあい、出来たよろこびを分ち合う。	• 出来た作品にほこりをもたせ、又他の作品を鑑賞する。

学　習　指　導　案

苫小牧市立若草小学校
第 1 学 年　40名
指導者　内潟光尚

1. 題材名　くわがたのすもう　（版画）

2. 題材設定の理由

対象を単純化して面で表現し、切ったり、重ねたりして、分解、組み立てをして版を作るという紙版画の特色を、くわがたのからだの構成を意識させ、遊ぎ的な製作をとおしてつかませたい。版画の学習体系の中で最も重要な分野の一つである紙版画の基礎学習として、しかも構成がはっきりするような題材を取り上げたのである。

3. 学習のねらい

① くわがたを造形的に表現させる
② 紙を切ったり、ちぎったり、重ねたり、並べたり、はりつけたりすることによって、画面の組み立てを工夫させる。
③ 版を写して（刷って）絵にすることに興味をもたせる。

4. 計　画

• かた押しあそび　（2時間）
• 積み重ねあそび(デ)　（2時間）
• 動く人形　(工)　（3時間）
• 紙 版 画　本時（⅓）

5. 本時の指導

イ. 目　標　くわがたを造形的に表現させ、画面の組み立てを工夫させる。
ロ. 準　備　画用紙、ナイフ、のり、のり下紙、手ふきなど。
ハ. 指導過程

	学習活動	指導上の留意点
導入	題材について話し合い。 作り方を聞く。	• 題材は事前に予告しておく。 • 相撲の経験を話し合う。
展開	版を作る。 • 切る。ちぎる。 • 並べる。重ねる。 • のりづけをする。	• どんなふうにしているところを表わしたらよいかはっきりさせる。 • 画用紙から、カッターナイフや指先を使って形を作る。（鉛筆などで下がきしない。） • 大きな部分の形を作り、それに小さな部分を重ねていくようにする。 • 切り取った形は台紙の上に重ねたり、並べたりして組み立てさせる。
整理		• 組み立てた形をのりで固定する。

学　習　指　導　案

苫小牧市立東小学校
第 2 学 年　　42名
指導者　　金子京子

1. 題材名　　サーカスの人たち　（描画）

2. 題材について

お話の絵は、子供の想像力を刺激するものであるが、サーカスの中でも、空中ブランコや、つなわたりなどは特別スリルに富んでいて、しかも新しい空間を認識させるのに、大変いい題材である。

3. 学習のねらい

1. サーカスのお話を聞かせ、スリルに富んだ一場面を自由にのびのびと表現させる。
2. サーカスの人たちと、見物人との表現のちがいをつかませ、話の内容に結びついた彩色をさせる。

4. 計　　画

△ かがみの中のわたしのかお　　描　1時間
△ と も だ ち　　描　2時間
△ 山のぼりのえんそく　　描　2時間
△ あなの中にすむいきもの　　デ　2時間
△ サーカスの人たち　　描　4時間

5. 本時の指導

イ. 目　　標　場面を想起しながら話の内容に結びついた彩色をする。（本時¾）
ロ. 準　　備　水絵の具、筆、筆ふき、パレット、水入れ。
ハ. 指導過程

	指導のねらい	学習活動	指導の要点
導入	前時までの学習の確認。	下書きした作品についての話し合い。	どんなところを表わしたいのか。
展開	本時のねらい。	彩色の計画を考えさせる。 • サーカスの人たちからぬる。 • 見物人をかく。 • テントやあみやぶたいをかく。	• サーカスの人たちのはでな服装に気づかせる。 • 二色をまぜてていねいに。 • 机間巡視により色を使えない児童の個別指導
整理	反省。 次時へつづく。	苦心や反省を発表する。	後仕末

学　習　指　導　案

苫小牧市立苫小牧東小学校
第 2 学 年　　42名
指導者　　船着昭弘

1. 題材名　　虫のえんそく（デザイン）

2. 題材について

低学年の平面デザインではリズム一本にしぼって指導しても、先ず間違いはないと思っているが、単に同じ形を自由にならべる学習ばかりでなく、大小、集まり拡がり、方向のリズムなどを、低学年向きにかみくだいて、題材を設定してやることが、リズム感覚を発展的に養っていくことになると考えている。

この意味で遠足の時にならんで楽しく歩いた経験による連想をもとに、子どもが強い愛着と興味をもっている虫をユニットにして、方向をもつ配列指導のために、この題材を設定した。

3. 学習のねらい

○ 虫の形や色に関心をもたせながら、楽しくはらせる。
○ ならべてはることによって、方向をもつリズムやくり返しの美しさなど、造形秩序に対する感覚を育てる。
○ 紙のちぎり方、のりのつけ方などの基本的技術を身につけさせる。

4. 計　　画

1. 花をみてかく …… 1時間
2. 花ばたけ（共同） …… 2時間
3. 虫のえんそく …… 2時間（本時½）

5. 本時の指導

イ. 目　　標　大小や方向を工夫して、くり返しはらせる。
方向のリズムや、くり返しの美しさに関心をもたせる。
ロ. 準　　備　色画用紙、色紙、のり、クレヨン、パス類、のり下紙、手ふきなど。
ハ. 指導過程

	指導のねらい	学習活動	指導の要点
導入	ねらいの定着化。	• 前時学習の話し合い。	• ねらいを確認する。
展開	大小や方向を工夫させる。	• 計画通りどんどんはる。 • 細かなところはクレヨン類でかく。	• 親子による大小や行先による方向に留意させる。
整理	リズムに関心をもたせる。	• 作品について話し合う。	• くり返しによる大小や方向のあるものの美しさ。 しごとのたしかめ。

学　習　指　導　案

苦小牧市立緑小学校
第 3 学 年　　37名
指導者　清野恒夫

1. 題材名　　おはなしの絵　（描画）

2. 題材設定の理由

3年生ともなると、描く対象物に一定の形を作りあげ、常に同じような固定した形式でえがくものが多くなり、作品をみても生き生きとした感情が少なく、独創的な発展が失われてくるように思われる。又発想も貧しく模倣にとどまるのが多い。このような概念化の方向と発想の貧弱さを克服しさらに確かな見方、感じ方をつかみとり表現できる子どもに育てたいと考えている。

そのため間接的な経験である物語から受ける感動とイメージを表現させることは、子どもの想像力、空想力を豊かにのばす上に最もよい方法であると思われる。しかし数多くある物語の中でどれをあたえるべきかを適切に選択しなければ逆に子どもの想像が分散し内容や主題がかすんでしまうことがある。

そこで題材選択の基本要素を次のようにおさえてみた。

(1)　子どもの実態や発達段階に応じたもの。特に3年生では物語の要素を比較的短文で表わしたもの。
(2)　子どもの環境や特質とかかわりのある内容のもの。
(3)　物語の内容が視覚的イメージを形成しやすいもの。

さらに選択した物語を指導の過程の中で、教える題材、考える題材、創る題材に配列し指導の視点を明確にしておかなければならないと思う。この題材の配列は上記の事をふまえた上(1)～(3)までは基礎造形的視点、空間自然認識視点(4)では独創力開発視点をおさえて同一領域内の材題のつながりを群としてまとめてみた。

3. 学習のねらい

(1)　物語から受けた感動をもとにして、豊かな想像力や空想力を育てる。
(2)　想像したり空想したりしたイメージを表現できる構想力と表現力を養う。
(3)　物語の主題をとらえさせ、その主題にそった場面を選んで表現できる能力を養う。

4. 計　　画　（10時間）

(1)　「うそをつく子供」　イソップ。
物語の要素をサインペンで白画用紙 1/16切に線がきする。（物語の要素をとらえる学習）

(2)　「つるのおんがえし」　日本昔話。
物語の発展を小筆で巻紙に小間割りして線がきする。　（物語の発展をとらえる学習）

(3)　「さかなのおうさま」　イソップ。
物語の主題に迫る同一場面を色画用紙1/8切に小筆で線がきし一部着彩する。（主題のとらえ方を学ぶ学習）

(4)　「ひとまねがちよう」　ステーエフ。
主題をつかみ白ボール紙1/4切に独創的に表現する。　（主題をつかみ独創的に描く学習）

5. 本時の指導　（6/10時）

イ．目　　標
物語の主題に迫る、独創的な画面構成をさせる。

ロ．準　　備
白ボール1/4切、サインペン、水彩えのぐ。

ハ．指導過程

指導のねらい	学習活動	指導の要点	
		内容指導	方法指導
主題をつかみ独創的に表現させる。	1. 物語を聞く。 2. 物語の要素、展開をつかみとる。 3. 主題について話し合う。 4. 主題に迫る構成をする。	1. 人まねがちようの形態のはあくを工夫させる。 2. 主要素と他の要素とのかかわりを考え構成させる。 3. 人まねがちうの表情が表現されるよう工夫させる。	1. 白ボールの性質 2. 動物の量感をつかみとらせる。 3. 構成の要素をおさえさせる。

学　習　指　導　案

苦小牧市立大成小学校
第 3 学 年　　37名
指導者　岡崎光輝

1. 題材名　　夢のさかな　（デザイン）

2. 題材について

○　厚紙のテープで型を作り、その中に石こうを流し込んで壁に飾る魚を作ることは、原材料が流動体であり、更に固まったものはけずりとることはできても、粘土のように、くつっけや変形が容易なものではない。　従って、造形の材料である石こうの性質をのみこみ、物の形を外から攻めていって決定する計画的な感覚と能力を育てることがこの題材のねらいである。

3. 学習のねらい

○　石こうについて興味や関心を持たせ、このような彫塑表現のあることを理解させる。
○　空想、構想力を高め、特に半立体としての表現力を育てる。
○　壁に飾るための装飾性についても関心を持たせ、デザイン的な表現力を養う。

4. 指導計画

①　材質を知る …… 1時間
②　枠づくり …… 1時間（本時）
③　流しこみ …… 1時間
④　飾　　る …… 1時間

5. 本時の指導

イ．目　　標　　石こうの材質を考え、自由な魚を想像し、できあがりを見通しながら，厚紙のテープを用い、工夫して外枠をつくる。

ロ．準　　備　　教　師……石こうレリーフ、厚紙のテープ、台紙、はさみ、セロテープ。
児　童……接着剤、手拭、新聞紙、はさみ、セロテープ。

ハ．指導過程

	指導のねらい	学習活動	指導の要点
導入	○石こうの性質について前時までの学習で知ったことを認めさせる。 ○石こうで作った参考作品を見せ外枠の必要に気づかせる。	○石工の材料についてわかったこと特徴について話し合う。 ○本時の学習は流し込みのための外枠作りであることをつかむ。	○石こう＋水＋流動体→固体、硬さもろさについて理解されていたか。
展開	○方法を考えさせ、確認させる。 ○条件を占え、手順を知らせ外枠を製作させる。	○穴や凸凹を作るための方法について話し合い知る。 ○眼か口は凸凹にすること。台紙を充分に利用したものになるよう鉛筆描きし、外側から順に紙のテープで外枠作りをする。	○気づかない点は教師が実証してやる。 ○方法、手順に誤りはないか、他の作品を比較させたりして机間巡視する。
整理	○製作されたものを検討させ流し込みによりできあがるものを予想させる。	○作品を見せあいながら、できあがりを予想し不足なこと、ぎもんなことはないか話し合う。	○興味を持って、目的にあったものができたか。

学　習　指　導　案

苫小牧市立苫小牧西小学校
第 4 学 年　　35名
指導者　千　葉　哲

1. 題材名　　苫小牧港　（描画）

2. 題材について

子どもたちの住んでいる苫小牧の西部は、歴史が古く、これまで市の発展の中心的役割をなしてきた王子製紙工場がある。しかし、最近は東部に北海道開発港が建設されてからは、これと相まって、街には工場が建ち並び、大きな建物が建ち、交通もはげしくなってきたことを子供たちも肌で感じている。

こうした建設、生産などの郷土に結びつく題材をとらえ、自分の郷土、伸びゆく国土、人間のえい知、努力、期待とよろこびを造形表現させたい。

具体的には、苫小牧港の静的な構成の中で、活動する船や、運搬車や、グレーン、働く人などをあらためてよく見つめ、表現させることによって、広い空間を的確にとらえ、形や色を工夫し、生き生きと力のこもった作品に導きたい。

3. 学習のねらい

イ．郷土の特異な港づくりに主題をとり、人間の創造に関心と期待を持たせ、その努力に感動を高めていく。
ロ．港の構築物、船などの形態をよく見つめさせ、スケッチさせる。
ハ．更に働く人のようすなどをとらえて画面構成させる。
ニ．広い空間を的確にとらえる色彩の工夫をさせる。
ホ．作品のよしあしがわかるようになる。

4. 計　　画

○ 港のスケッチをする …… 2時間
○ スケッチをもとに下絵を構成する …… 1時間
○ 色の調子を考えて彩色する …… 2時間（本時½）
○ 作品を見せ合い話し合う …… 1時間

5. 本時の指導

イ．目　　標　　自分のイメージをはっきりさせ、色の数、濃度、混色を考えて彩色させる。
ロ．準　　備　　画板、画用紙、新聞紙、水彩えのぐ、筆、パレット、スケッチブック。
ハ．指導過程

	指導のねらい	学習活動	指導の要点
導入	○話し合いによって表現のためのイメージ化を図る ○全体の色調を考えさせる	○自分のイメージをきちんとつかむ。	○自分のイメージに近づけるために具体的に話し合う。 ○イメージに合った色調を考える。
展開	○画面全体を美しい色調にさせる。	○自分のイメージの中心になったものから思い切って彩色する。 ・下絵の線を生かす。 ・筆づかいを考える。 ・混色工夫する。 ・水のかげんをする。 ・色の調子を考える。	○下絵の線を生かした彩色をさせる。 ○彩色の際の諸注意や問題を示してやる。 ・混色 ・ぬり方 ・パレットの使い方
整理	○できたところまで自分の作品と友だちの作品のちがいについて気づかせる。	○作品を見て話し合う。	○自分の作品と、友だちの作品をくらべながら、よくできているところ、苦心しているところを話し合って次時の作業の方向づけをする。

学　習　指　導　案

苫小牧市立苫小牧東小学校
第 4 学 年　　40名
指導者　和　田　弘

1. 題材名　　ワツペン　（デザイン）

2. 題材について

ワツペンは日常生活の中で子どもの目に非常に多くふれている。とくにワツペンにいたっては、テレビのＰＲなどの影響により、とびつく教材である。

配色、創造の学習を基礎にして装飾、伝達機能の両面をふまえたデザインを興味深く学習させる上には、まず子どもの生活と結びつきを考え、このテーマを設定した。

3. 学習のねらい

ワツペンを作ることによって創造する力、色や形の感覚を養い、飾る喜びを味わわせる。

4. 計　　画

(1) 色の組み合わせ …… 2時間　(2) 形の組み立て …… 2時間
(3) はってつくるもよう …… 2時間　(4) ワツペン …… 2時間　（本時½時間）

5. 本時の指導

(イ) 目　　標

自分で創意工夫したものをつくりだすために、効果的に表現を現わす条件を知り、そのための構成を計画的に順序よくつくる。

(ロ) 準　　備

色画用紙、色紙、絵具、マジック、はさみ、のり

(ハ) 指導過程

	指導のねらい	学習活動	指導の要点
導入	◉自分でつくり出してみよう。	◉話し合い。 ・つくりたい雰囲気や経験。	◉今までにないような形、色もきれいなのを作ろう。
展開	◉ぼくのワツペン。 わたしのワツペンをつくる。 創意工夫する。	◉話し合い。 ○自分を表わすには。 ・ローマ字の頭文字。 ・文字、絵など入れる。 ○形を工夫する。 ○テーマをきめる。 ○作り方について考えてみる。 ○色のつかい方。 ○下絵をかく（ごくかんたんに） ○児童、教師の作品を鑑賞する。 ○順序よく考えてする。	◉表現するための条件を知る。 ○良く目だつ。 ○ひと目でわかる。 ○かんたんにする。 ○色数は四色。 ○材料の条件。大体を作るヒントを得よい点をみつける。 ○ていねいに計画的に構成していく。
整理	◉本時のまとめ。	◉再検討する。 ◉次時予告。	◉設定した条件のなかで自己のアイデアが生かされているか。

学　習　指　導　案

苫小牧西小学校
第５学年　38名
指導者　長沢晃

1. 題材名　工場とそのまわり　（描画）

2. 題材について

苫小牧は生産の都市といわれ、王子、岩倉の工場を中心とした工業都市である。現在港の開発も進められどんどん発展している。このような地域環境の中で子どもたちは、生産発展する郷土、国土を肌で感じている。この身近なところより題材を取らえ、あらためて工場を見ることによって、自分たちの郷土を考えさせるとともに、スケッチを基にして画面を構成する造形思考、表現の手段を身につけさせるのに適切な題材と考えられる。

3. 目　標

(1) 画面の構成力を養う。
(2) 主従の対比を考えさせる。
(3) 主調色を考えさせ彩色させる。

4. 計　画　（6時間）

○ スケッチをする …… 2時間
○ スケッチをもとに下絵をかく …… 1時間（本時）
○ 彩色する …… 2時間
○ 鑑賞する …… 1時間

5. 本時の指導

(1) 目　標　○ スケッチをもとに画面を構成する。
　　○ 画面の補なうところ。省略するところを意図し整理する。
(2) 準　備　○ スケッチブック、画用紙、鉛筆、消しゴム。
(3) 指導過程

	指導のねらい	学習活動	指導の要点
導入	○表現意欲を高めさせる。	○スケッチを見ながら、見てきた工場の様子と感じを発表すする。	○感じたことの発表をさせる。 ○多くの児童に発言させる。
展開	○主と従の関係をはっきりさせる。 ○補なうところ、省略するところを整理させる。	○スケッチを見ながら自分の構想を確かめる。 ○構想をもとに下絵を描く。	○どう画面を構成し、スケッチを生かしていくか、くふうさせる。 ○スケッチをもとに中心を何にするかはっきりさせながら構成させる。 ○訂正させながら、しっかりと構成させる。
整理	○友だちの作品との相違に気づかせる。	○作品をみて話し合う。	○不足点、充足点を発見させ再考させる。

学　習　指　導　案

苫小牧市立大成小学校
第５学年　35名
指導者　小岩俊

1. 題材名　牛の頭をつくる　（ちようそ）

2. 題材について

学校のまわりが牧場になっていて、牛は子どもたちにとって親しい仲間だ。牛はこれまでになんども表現のモチーフの中で友だちになり、制作意欲をもたせるによい対象と考える。

いろいろな材料を使って、創作表現を経験させるということから、「石こう」と「発泡スチロール」を利用することにした。頭部をかたまりとして意識させるために、小さなものより、大きなものの方が、量感や力感にまさるので、しん材としての発泡スチロールは、かっこうの素材と考えている。

3. 学習のねらい

(1) 材料の特質を知り、構想から表現までの段階を見とおして誠実な制作の態度を養う。
(2) 材料経験をとおして、彫塑学習の経験をさらにひろげるとともに表現活動への関心を高めさせる。

4. 計　画

○ 顔をつくる ― いかり、おどろき、かなしみ、わらい。
　ブロンズ粘土 …… 4時間
○ 鳥と魚をつくる ― はばたく鳥、えさをたべる鳥、たべすぎた魚。
　石こうレリーフ（流しこみ） …… 4時間
○ 牛の頭をつくる。
　第1次　テーマの理解と制作順序、下絵をかき相互検討　2時間
　第2次　発泡スチロールの性質と接着剤の関係を知り頭部しん材作り。2時間
　第3次　石こうとき方と、じかづけ制作。　2時間（本時½時間）
　第4次　作品鑑賞　1時間

5. 本時指導

イ. 目　標　構想に基ずいたじかづけに興味をもってする。
ロ. 準　備　石こうの容器、スプーン、スケッチなど。
ハ. 指導過程

	指導のねらい	学習活動	指導の要点
導入	○本時の準備を確めさせる。	○石こうじかづけの準備。作業手順方法などについて話しあう。	○石こうのあつかい方、方法、順序図解し説明する。
展開	○石こうの特性を知り、構想に基づいた頭部を作らせる。 ○表現方法の補充。	○石こうをとかし、じかづけ。 ○作品を検討し、工夫を加える。	○石こうのとく量、容器の洗うタイミング、やわらかさとじかづけの方法。
整理	○主題の確認。 作品保管について考える。	○作品についての相互批評。 ○後始末をする。	○用具の後始の末方法。 ○次時の指導。

学　習　指　導　案

苫小牧東小学校
第 6 学年　43名
指導者　鈴木誠治

1. 題材名　楽しいちようちん　（デザイン）

2. 題材について

○ 北国のひと月遅れの七夕祭りも、子どもたちにとって楽しい行事の一つであろう。七夕とちようちんは切り離せないものであ、りそれを自分で工夫をして作ることによって、なお楽しいものになるだろうと考え、この題材をとり上げました。線材で骨組みをを作り、ローソクの火が消えないように、そして光を透して見ることを考えて楽しい模様を作り、実際に使うよろこびを味わせたいと考えました。

3. 学習のねらい

イ．ちようちんの機能にそうように、創造的な形のものを作る。

ロ．線材といろいろな紙について材料処理の基礎的な能力を身につけさせる。

ハ．光を透した模様や色を工夫しその美しさを味わせる。

4. 計　画

○ 楽しいちようちんのデザインと線材による骨組みを作る …… 2時間

○ 紙をはって模様を作る …… 2時間（本時¾）

5. 本時の指導

イ．目　標　・光を透した美しさを考えて模様を作る。

ロ．準　備　・各種の紙、えのぐ、カツター、ローソク。

ハ．指導過程

	指導のねらい	学習活動	指導の要点
導入	・本時のしごとについてはっきりさせる。	・光を透した効果を考えて模様を作る計画を立てる。	・既習の表現方法を想起させる。
展開	・質紙、技法、配色を考えてかざりを作らせる。	・いろいろな方法でかざりを作る。	・カツターの使い方と紙質、配色について考えさせる。
整理	・過程と効果のたしかめ	・実際に火をともし作品について話し合う。	・機能についてのたしかめ。

学　習　指　導　案

苫小牧東中学校
第 1 学年　45名
指導者　福井宏

1. 題材名　木をテーマとしたポスター　（デザイン）

2. 題材について

勇払原野にそだつた苫小牧の子供は広々とした環境の中でのびのびとそだってきたが、その反面、非常にきびしい自然条件の中であるために木や花はあまりそだたず、したがってかさかさしたはだざわりのかわききったような子供に成長しているのではないか。そこで本題材では樹木をテーマとしてあつかい。生徒に樹木に対する感心を高めさ、せいくらかでも木を大切にする習慣を身につけさせ、生活にうるおいをあたえたい。又単純で明快な近代的デザインの美くしさをポスターをつくることにより気づかせ、生活の美化に役立たせたい。

3. 学習のねらい

○ 文字と絵とが調和した美しい目立つポスターをデザインする能力や能度を養う。

○ 樹木を大切にする意義を理解させ、日常生活にうるおいをもたせる。

4. 指導計画

1. ポスターの役割や必要条件を理解させる …… 1時間
2. アイデアスケツチからイアウトへ …… 4時間
3. 彩　色 …… 4時間（本時¾）
4. 上げ及び展示計画 …… 1時間

5. 本時の指導

イ．目　標　・色相や明度の差を考えて単純で明快な彩色を工夫させる。
・自分のアイデアを生かすために、いままでに学習された技法を十分に生かすよう工夫させる。

ロ．準　備　4つ切り色画用紙、ポスタカラー、水彩えのぐ、筆、パレット、画板。

ハ．指導過程

	指導のねらい	学習活動	指導の要点
導入	○主題の意図にあった彩色計画を立てさせる。	○イメージにあう彩色計画を立て、技法についてたしかめる。 ・全体の色調について。	○各自イメージを確認させる。 ○色数について制限する。 ○作例によって彩色の内容や方法を具体的に考え計画させる。
展開	○イメージと制限にあった彩色を工夫させる。	○色調を工夫しながら彩色する。 ・バックの色との調和。 ・技法のたしかめ。	○効果的な彩色を工夫させる。 ・色調の工夫。 ・混色の工夫。 ・明暗の工夫。
整理	○各自の彩色の工夫点について反省させる。	○着色についてたしかめる。 ・配色はよいか。 ・着色はどうか。	○製作過程を考えさせる次時の注意点をたしかめる。

学　習　指　導　案

苫小牧市光洋中学校
第 1 学 年　　34名
指導者　坂東軍治

1. 題材名　　月夜に鳴くサワン　（描画）

2. 題材について

現代生活にはかかわり合いのうすれた自然と人間の本来性の交流が交流が感ぜられる文学教材である。作者とかりが様々な場面の中でじかにふれ合いを深めながら次第に生活に迫る描写は、生徒達に切実な想像をかき立たせてくれるものと考えられる。ことに月夜に飛ぶ仲間のかりと鳴き交わす場面がクライマックスでありここに主題のイメージを造型的に処理するための課題が集約できると考えられる。

3. 学習のねらい

構想表限の学習は、自己の内面生活の表現欲求、即ち生徒達の創造性が源である。
従って創造性の開発伸張を図るため、この学習では、文学的教材を選択し、経験させ、彼等の内面生活と関心に深く関連する視覚的イメージを引き出すことを始点とした。
このことから、教材のもつ造型的課題を達成するための学習を通して表現能力の向上と、合わせて創作のよろこびを味わせたいと考える。

4. 計　　画

○ 主題の把握と表現場面の分析 …… 2時間
○ イメージの定着とアイデアスケッチ …… 2時間
○ 下絵と着彩計画 …… 2時間
○ 着彩表現と鑑賞 …… 4時間（¾本時）

5. 本時の指導

イ. 目　　標　・主題のイメージを効果的に実現効果を工夫しながら着彩する。
ロ. 準　　備　・4ツ切画用紙、水彩えのぐ、筆、筆ふき、水入れ、画板、バケツ。
ハ. 指導過程

	指導のねらい	学習活動	指導の要点
導入	諸準備の確認。 本時の内容確認。	仕事の進め方について確かめる。 準備、用具。 主題について話し合う。	手順をはっきりさせる意欲的な活動へ方向づける。 イメージを鮮明化させる。
展開	前時に引きつづき主題のイメージにそった着彩をする。	計画を中心に全体の色調を工夫し効果的な着彩をする。	内容にそったイメージを表現する技法の工夫。 水量や色量、混色のしかた筆致、色調。 個性的表現へ向うよう方向づける。
整理	着彩の効果性について反省する。	イメージをよく表現できたか。 次時予告。	どんな点に工夫をしたか発表させる。

学　習　指　導　案

苫小牧市立弥生中学校
第 2 学 年　　43名
指導者　沼田　卓

1. 題材名　　芝生と花壇のレイアウト　（デザイン）……共同製作

2. 題材について

校舎の正面にあった旧校舎がこの春に解体され、その跡が広い前庭になった。
そこで、2学年としてのデザイン指導の中で、特にレイアウトに重点をおき、環境造りに合わせてこの題材を設定した。

3. 学習のねらい

グループ活動の中で各自の持っている個性を思う存分発揮させるようにし、そのことが今後の学級活動をしていく上で一致協力する姿勢を養なわせようにしたい。

4. 計　　画

(1) 配色、構成練習 …… 4時間
(2) 花壇のパターン作り …… 2時間
(3) 芝生と花壇のレイアウト（個人のアイデアを練る） …… 2時間
(4) 芝生と花壇のレイアウト（グループと話し合いレイアウトを進める）
…… 4時間（最終1時間本時）
(5) 作品完成で批評会（コンクール） …… 2時間

5. 本時の指導

イ. 目　　標　○ 常に全体からみた前庭を頭に入れ、構成美の要素を生かさせる。
○ グループでの話し合いを重視し、各自のアイデアを生かすようにする。
○ 材料、技法を考慮し、適切に表現させる。
ロ. 準　　備　（材料）白ボール、色紙、布切れ等（用具）ハサミ、ナイフ、接着材等。
ハ. 指導過程

	指導のねらい	学習活動	指導の要点
導入	○本時の準備を確認させる。	○全体計画と前時の仕事を検討し、本時の内容、手順をおさえる。	○各自の花壇のパターンなどは用意しているか。
展開	○前時に引き続き、よく話し合わせながら製作させる。	○前時作成した各自の花壇のパターンを生かしながらすでに配置した芝生の上にレイアウトする。 ○前時に配置した芝生に不足なところを補ない修正する。	○各自のアイデアがグループの中で生かされているか。 ○常に全体をみているか。
整理	○未完の部分は次時に完成させる。	○作品を大切に保管し、後始末をする。	○保管上の注意をし、次時の予告をする。

学　習　指　導　案

苫小牧市立和光中学校
第 2 学 年　　45名
指 導 者　　川畑盛邦

1. 題材名　　友達の顔を作ろう　（彫塑）

2. 題材について

生徒の発達段階に於いては、自らに目覚め、また他を意識する頃であり中学校生活で友達というものが重要なものになってくる。中学生は彫塑に対する充分な与味と可能性を持っているが、彫塑あるいは石膏そのものに対する経験が少ないが為に起る抵抗感によって座折する事が多い。これらを打開するために、生徒にとって身近で興味深い題材を設定せねばならないが、ここに友達の顔を作るという題材を設定し、興味深く観察し、考え、表現させたい。

3. 学習のねらい

中学生の過去の学習内容を見ると、２次元的表現が多くを占め、ここでは単に自由な創造、表現という方向に押し流され、対象の把握がある程度無視されてきたように思う。これは、立体構成などの上に如何に現われる事実と思う。すなわち立体感把握の欠除である。そこで立体感把握の一つの方法として彫塑学習をとりあげてみた。又、彫塑学習に於いては材料に対する抵抗感、制作過程の複雑さなど困難な要素が多分にあるが、それだけに生徒の創造性を多く発揮できる教材と思う。

4. 計　　画

1. 人物デツサン …… 4時間
2. 石膏ジカヅケについての話し合いと説明 …… 1時間
3. 芯棒制作 …… 1時間
4. 頭像制作 …… 本時⅛時間

5. 本時の指導

イ. 目　　標　○ 石膏の正しい取り扱い方を理解する。
　　○ 出来上りの形を意識しながら、石膏を盛り上げる。

ロ. 準　　備　石膏、ヘラ、容器、スタッフ、芯棒、新聞紙、紙袋、麻ひも。

ハ. 指導過程

	指導のねらい	学習活動	指導の要点
導入	本時の内容と手順を確認する。	○ジカヅケの準備（用具、その他） ○仕事の手順について話し合う。	○準備、手順を確実にさせる。
展開	石膏の特性を理解させる順序よく制作させる。	○石膏をとき、スタッフを浸して盛り上げる。	○石膏のとく量、硬さを適度にする。 ○スタッフをベール状にまきつける。 ○手際よく仕事を進めるために麻ひもを使用する。 ○仕上りの大きさを予想しながら形作る。
整理	制作状況を確めさせる。	○仕事の反省をする。 ○あとしまつ。	○内容、手順を再確認し、指導する。 ○次時予告。

学　習　指　導　案

苫小牧市立啓北中学校
第 3 学 年　　40名
指 導 者　　三 上 保

1. 題材名　　港の様子　（版画）

2. 題材について

１学期の学習のまとめとして、生徒の実態と本題材のもつ意義とから、自分の住む発展しつつある市の生活、風物を感動をもって、見つめ、その感動を卒直に表現する意欲を導き出すため版画表現とした。単色刷り版画が感動の強調、集中に効果的であると考え、版画の楽しさ、素朴な美しさ等を味わわせ、卒業後の生活の中に版画による表現の機会を少しでも持ってほしいこと。

共同製作を通し協調性を養い、その作品は卒業記念として学校に残すものとする。

3. 学習のねらい

○ 港で観察したところをもとにして、構想豊かに表現させ、創造的表現力を養う。
○ 地域社会の環境美化について関心をもたせる。
○ 単色刷りの特色を理解させ、その技法、製版に工夫を加え、版画に対する興味を広める。
○ 共同製作を通し協調性を養う。

4. 計　　画

○ 現地写生 …… 2時間
○ 写生から版画に適するよう構成 …… 2時間
○ 彫り …… 4時間
○ 試し刷りと修正彫り …… 2時間
○ 本　刷 …… 2時間（½本時）
○ まとめと反省、鑑賞 …… 1時間

5. 本時の指導

イ. 目　　標　単色刷りの効果を工夫しながら、力強い美しさに刷り上げさせる。

ロ. 準　　備　版木（ベニヤ）バレン、えのぐ、パレット、筆、筆洗い、和紙、セロテープ。
　　新聞紙、手ふき布、定規、小刀、糊。

ハ. 指導過程

	指導のねらい	学習活動	指導の要点
導入	諸準備の確認。 前時の学習の結果の確認と本時の内容確認。	仕事の進め方について 前時の学習の結果について話し合う。	ためし刷りの作品より、版の修正について、検討させる。
展開	本刷りの手順について理解させ、力強い美しさに刷ることを工夫させる。 各部分ごとの作品を集めて共同版画を完成させる。	本刷りの手順について話し合う。 本刷りをする。 各自の作品を集め、糊づけする。	刷りに必要な技法を習得させる。 作品の糊づけは、ていねいにさせるよう留意する。 共同製作により、力強い美しさに表現がなされたかを確認させる。
整理	製作状況を確かめさせる。	製作過程を考えて、反省をする。	製作過程を考えさせ、次時の予定を確かめさせる。

分　科　会　7月30日 13:00～17:00　7月31日9:20～12:00

	分科会		司会者	提言者
	幼稚園		砂金　隆（札幌市手稲中央幼）	石附省子（札幌第一幼） 芝木捷子（札幌なかのしま幼） 松浦くに（苫小牧市立幼）
小学校	1年	A	荒木アイ（児童画研究所）	辻　悦平（札幌大通小） 内潟光尚（苫小牧若草小）
		B	和田芳郎（札幌月寒小）	遠藤久男（札幌美香保小）
	2年	A	橋本　富（札幌山鼻小）	種市誠次郎（札幌発寒小） 船着昭弘（苫小牧東小）
		B	長谷川　伝（札幌本郷小）	成田一男（札幌豊平小）
	3年	A	山本慶一郎（札幌豊園小）	佐藤　圭（東札幌小） 白井禎二（苫小牧緑小）
		B	高橋栄吉（札幌藻岩小）	松島輝男（札幌幌西小）
	4年	A	越田一喜（函館金堀小）	佐々木理温（札幌元町小） 佐藤幹夫（苫小牧清水小）
		B	笹原　亮（札幌東橋小）	側瀬宇太郎（札幌明園小）
	5年	A	斎藤一雄（札幌新川小）	金井秀男（札幌東小） 小岩　俊（苫小牧大成小）
		B	伊藤将夫（札幌平岸小）	森川昭夫（札幌教育大附属小）
	6年	A	伊藤英世（札幌教育大附属小）	伊藤　恵（札幌東園小） 金子　正（苫小牧西小）
		B	小山田　武（札幌柏木小）	佐藤吉五郎（札幌幌南小）
中学校	1年		斎藤洪人（札幌幌東中）	吉田広仕（札幌美香保中） 原田省吾（苫小牧東中）
	2年		太田達雄（札幌手稲中）	斎木呆一（札幌伏見中） 江川佳徳（苫小牧和光中） 坊坂　博（苫小牧弥生中）
	3年		三谷哲司（札幌教育大附属中）	森　健（札幌日章中） 片桐　勉（苫小牧啓北中）
	高校		中村矢一（札幌月寒高）	土岐禎次（札幌北高）

他科　可能も参加.

幼稚園

幼稚園

教材群の組み立てをどうとらえたか

— ① 解放　② 経験　③ 教材群 —

提言者　松浦くに

苫小牧市立苫小牧幼稚園

① 絵画製作の実態。

1. ねらい　心身共に解放され生き生きとした一人立ちの出来る子。
2. 園児の実態と指導観。
   - ⊙家庭環境によるが文化財の生活領域がせまいこのような地域性の中で題材をまず子供達の身近かな物に結びつけ教師のアイデアや新しい教材の開発によって子供達に色々な経験をさせ生活領域を広めて行く事に指導の力点をおいている。
   - ⊙本園の子供達は粗野であるが極めて行動力に富む。この行動力を造形思考表現の中でも逞ましく生かしていく方向で努力している。
3. 設備用具　絵具箱25　鉛筆500　色紙整理箱1　絵画整理棚3　版画セット20　土粘土バケツ25　粘土板130　画板130　工作台6　金槌120　ホッチキス25　目打25　大鋏6　釘箱3　セロテープカッカー4　落書黒板教8

② 教材群と題材の組織立て。

A群

(1) ダンボール遊び（作る）
つみかさねたり、並べたり、潜つたりして形を工夫させる。

(2) 遊具のトラックにのって（描く）
私の経験を制限された色で、いきいきと描かせる。

(3) 土粘土で乗物を作ろう（作る）
のびのびと自由に作らせる。

B群

(4) お友達の新しい家（描く）
家を建てている大工さんの動きをとらえさせる。

(5) 手足の動く人（作る）
大工さんごっこで手足の動く人を作り道具の使用を体験させる。

C群

(6) 車で遊ぶ（作る）

(7) 汽かん車（描く）
感動をそのまゝ絵として表現させる（本日授業）

(8) 動く乗りものを作って遊ぼう（作る）
遊ぶために作り、作って遊ぶ（本日授業）

③ 実践例。

(1) 遊具のトラックに乗って（描く）
(2) 大工さんごっこ　（作る）　詳細別紙

小学校

小学校1年

〝1年生の紙版画をやるまで〟

提言者　内潟光尚

苫小牧市立若草小学校

昨年度本校では全校的におち込みのある〝版画〟を中心に研究が進められてきた。彫刻力を使い或は紙を切ってはりつけて版を作ることと、それを刷り上げる楽しみは、子どもの興味の持続と、刷り上げたあとの作品に対する味わい楽しむための造形意欲は端に絵を画く要素ばかりか、刀やはさみなどを使うことから工作的要素も充分あるわけで教師の側も非常な意欲を燃やしてきた。

版画の順次性を考えた指導体系をつくることは、大へんむずかしい事である。特に1年生では入学当初、子どもの実態をつかむ事はかなりの時間が要する。4日5日は、種々雑多な教材でおこなう事は自然であると思う。なぜならば、この時期は競馬で云うならば馬のはなづら合わせの時と同じようなものと考える。

教材群を作り指導体系を確立していけるのは、6月以降である。

昨年は次のような教材群で紙版に至るまでの積重ねをした。

- 型押し版画
- ↓
- こすりだし
- ↓
- 粘土版画

→ ・紙版画

型通りの紙版までの指導をしたが、実際に紙版に入り一番先につまづいた事は、分解、組み立て、を子どもが出来ない事である。紙版の決定的なものは、この分解、組み立てが大切な要素である事を知った。

今年は1年生の紙版までの指導体系を次のような教材群で指導した。

- かた押しあそび。
- 積み重ねあそび。（デ）
- 動く人形。（工）
- 紙版画。

かた押しあそびでは、もののうつりを知ることがねらいであるので〝えのぐ〟でなくスタンプインキで、型はゴム質の物を使用した。

あたえられた紙片でつみかさねとのりをつける技術を指導した。

動く人形づくりでは、紙版の本命である分解、組み立てをねらいとして指導した。

小学校3年

教材群つくりをする中で

提言者　船着昭弘

苫小牧東小学校

5年生で木版画を指導する時、低学年の時に紙版画をやっているという前提にたって指導にあたるでしょう。しかし、その5年生が紙版画もやっていなかったとしたらどうでしょう。

教育の営みとしては、指導そのものに計画性がなければならず、指導内容の系統的な発展が吟味されていかなければならないことは、いうまでもありません。

そのためには、何を学ばせるために、どんな教材を、どんな授業をくみたてて、という授業の中味の手だてを考えていかなければなりません。このことを構築だと考えているのです。そのためには教材の精選と指導の手順が必要になります。子どもに生きた能力をつけさせる指導。その能力をひとつひとつどう展開していけばよいのかということが命題になるでしょう。

教材群を考える時に、教材さがしをし、精選していかなければなりません。精選ということばからは、要素的なもの、中心的なもの、骨組みを重視し枝葉末節は省くなどと解されると思いますが、ただ単に節約を意味するものであれば困りものでしょう。結果として残るのは貧しく寒々しいものにならざるを得ないからです。精選のためには、豊富さが前提となり、その豊富さから導き出されるものでなければ、精選とはなりません。

今まであった教材の中に教材として意義づけをしてみること、条件づけのために名詞的題材から動詞的題材など考えてみています。勿論新しい教材づくりも必要になってきます。

実践していくなかで、発想おぼれや失敗もありました。こうちく、コーチク、教材群と考えにこだわっていく中で生き生きした子ども本来の良さをつぶしていないかと疑問になったりしながら仕事をつづけています。

実践例

A群（様式化から離脱、新しい概念づくり）

- ボールなげ（彫）
- どろぼうのあしあと（デ）
- おとしたけしゴムをさがすわたし（描）
- ボールぶつけ（描）
- とけいをうごかしている小人たち（描）

小学校3年

児童の独創力の開発をめざして

— 物語の絵 —

提言者　白井禎二

苫小牧市立緑小学校

1. 本校3年児の実態から。

本校3年児の描画傾向を単的に述べるなら。

(1) 創造的に思考する力が極めて貧弱である。

(2) 概念的な表現が多く、描画内容も豊かでない。

(3) 表現技術が未熟で、発想が十分に表現されない。

児童は描く喜びを十分持っているようだが、感動を込めて、意図的に画面に表現できないでいるのである。極めて、貧弱な表現のままで停滞している児童が多数あるということは、過去の体制の中に欠陥があった為だと考えられる。それらの原因の1～を挙げてみるなら

① 従来の年間計画は総花的で、題材間の関連性が薄く能力の積み上げが十分になされてなかったこと。

② ねらいが不明確であって、何をどのように能力化しようとするのか曖昧であったこと等が挙げられる。それ故に、本年度からは児童の不十分な能力を高める為に意図的に題材を配列するように試みたのである。

2. 独創力を開発する為の題材の配列。

創造する力の貧弱さを補うには、物語の絵は極めて適切な題材であると考えた。何故なら、質の高い主題に依って支えられている物語にとれることに依って、価値あるものの見方、考え方が養われるし、描くことから感動が深まり、それらを基礎として、イメージがより豊かになってくるからである。

しかし、あくまでも物語そのものを描くことが主体ではなく、それを通してより豊かな独創力を育て、新しい世界を造り出させていく力を養うことが本体なのである。以下物語の絵の指導過程を列挙してみる。

(1) 物語の要素をとらえる学習。

「うそをつく子ども……イソップ」……1時間

用具、材料　技法を制限して　基礎技能を能力化する。線がき、サインペンと 1/16切白画用紙。

(2) 物語の発展をとらえる学習。

「つるのおんがえし……日本昔話」……2時間。

線がき、小筆と3色、巻紙で小間割。

(3) 主題のとらえ方を学ぶ学習。

「さかなのおうさま……イソップ」……2時間。

一場面の表現、用具、材料、技法制限、線がき一部着彩。小筆と色画用紙1/8切。

(4) 物語の主題をつかみ、独創的に表現する学習。

「ひとまねがちよう…「ステーエフ作」……5時間。

白ボール紙にサインペンで構成し、独創的な表現をする。

以上の接導過程は、(1)～(3)は主として基礎的な技能を育て、その上に立脚して(4)では、独創力を十分に発揮できるように題材を配列した一つの試案である。

小学校4年

「私の構築」

提言者　佐藤幹夫

苫小牧市立清水小学校

苫小牧へ転任して4年、「指導の構築」というこうばを耳にして3年、大会での発表、提言、意見をうかがい、指導の構築をどうとらえたらいいのか、模索し求めてきました。

「学習内容の系統表」、「造形能力の体系表」は、図工美術科の教科性、科学性の確立にとって意義深いし、我々の指導のめやすともなりました。また、これに教材構造の理論が、それをさらに明確にしたのかもしれません。こう考えてくると指導の構築をどうとらえるかということは、なかなかの難問であります。

しかし、いちばん大切なことは、これをどう子どもに降すかということではないでしょうか。

○無気力に、投げやりに筆をうごかす子。

○バックは何色にするの？とたずねる子。

○おしゃべりに夢中で、ふざけ半分に描く子。

○途中で投げ出してしまう子。

○画面に小さく、おそるおそる描く子。

○感動を追求せず、適当に逃げて描く子……etc。

これらの子どもたちに、この構築輪をどう降すか、そしてこれらの子どもをどう変えていくかということ、さらに、これらの子の裏にある人間性をどう変え、育てていくかということが、最も大切であり、このことが「指導の構築」であると考えます。

これは決して図工科（美術科）だけで解決できる問題ではなく、学校生活のあらゆる場面で、あらゆる教科で問題にし、解決してゆかねばなりません。

図工の指導は単なるうまい絵を描かせることではなく、あくまでも人間そのものを育てるためのものでなければならないと考えます。

以上の考えから行なったつたない私の実践を提言致します。内容としまして。

1. 私の学級、学校の実態について
2. 確かな造形能力を養い、明るく、たくましい子どもを育てるために、教材群をどう配列したかについて。
3. 描画指導を中心とした指導の実践例について。

小学校5年

教材群をもとめて

提言者　小岩俊

苫小牧市立大成小学校

構築を見染めて二年目にある。たび重なるデートのたびごとに、今だ、すべて吾ものとできえぬ不安と、高鳴る愛が呼きかける希望のまなざしに、おののいた。

私共が、共に過してきた構築の素顔を、スケッチしてみます。授業が待ちどおしく、夢中になるということは、結局子供が今触れている仕事のなかみがよく解っているということなのです。どこに目を向けるか、なにを工夫するのか、どう表現すればいいのかが知っているということなのだと考えます。ただこの点に関しては、決して新しいことではないし、どの教科についても、言えることでしょう。構築の連鎖的、発展的な事の順序性は、能力化していくための、条件設定をどんな視点から、どのような手順に従って組みたてたらよいかということになります。

私共のとり組んできた課題は、視点の縦の軸と能力表とをどう関連づけるかということであり、視点からどんな教材群を導くかということでした。

更にまた、題材のもつはたらきを明確にとらえることも重要な仕事で、いく度かのねらいの不確さなどの失敗を重ねながら、今日に至っている。題材のもつはたらきを明らかにするということは、さきにのべたように、子供が表現にたちむかう時の姿勢を与えることにもなります。

さて、最後にだれでもがやられているが、しかしまた、それぞれの教師が変化に富んだ個性的な方法をとられているものに、学習の「きまり」があります。パレットの扱い方、筆の扱い方、絵の具のとき方、まぜあわせ方、筆洗の水、準備の仕方、整理の仕方、後仕末の仕方、など直接教材の表面にうつし出されないこの種の、習慣が実は誠実な作品を完成するなめに、欠く事の出来ぬ要因であることも遅ればせながら、解りかけてきました。

小学校6年

〈構　築〉

— 題材を組織だてる仕事から —

提言者　金子正

苫小牧市立苫小牧西小学校

指導の構築を考えるとき、題材をどのような考え方でどう組織だてていくかと言うことが今更のように大切な意味をもってくると思います。それは—何を—の内容条件と—いかに—の方法条件の二面からとらえられていかねばなりませんし、題材の価値といったことをよく考えて組織だてていかねばならないからです。

構築に当っては、教科のねらう基幹となるものから構造化していく下降方法と、小単元の構造化から出発して発展的に累積することによって分野の構造化へと進む一連の上昇方法をとるもの二つの方向が考えられます。

そこで私共は、題材を組織だてるに当って目標視点や地域と児童の実態に照し合わせながら次の三つの根本指標や教科性を考えて下降方向とし、地域や児童の実態、この題材を学習することによって子どもの心に育つものは何なのかといったことから題材を群に構成し組織だてていくことから上昇方向をとったわけです。

その三つの指標は。

1. 子どもの生活や地域に結びついた題材を組織だて、自分の郷土、発展する国土と人間の英知、努力、夢、完成への創造と期待とよろこびに基本テーマを求め、題材を発展的累積的に構造化する。
2. たくましい生命力と豊かな創造力を育て主体的能動的に自己をつくりあげていくことに題材を組織だてる。
3. 現実の世界や外部の諸条件に自己を寄与させることにより創造性を培う。

以上のことを教科性を加味しながら指標とし、教材内容を精選し組織だてていこうとするものです。

組織だてにあたっては、教科の独自性から大単元的題材構成をたてまえとしますが、そのなかにいくつかのステップ—教材群～題材—を設けることにより児童が段階的に学習を進めることの出来るようつまり、学習の構造図といったものを生みだしながら、教材の質的精選について迫っていきたいものと考え、指導の構築に基く題材と教材群の組織だてについてどう進めてきたかということから試案を提言したいと思います。

中学校

中学校　年

生徒の実態をふまえた指導計画の組み立てについて

提言者　原田省吾
苫小牧市立苫小牧東中学校

この教科の性格や、本質を、教育の中でややもすれば知識や技術の獲得や伝達に偏しやすい教科の中で、育てることに重きをおいた唯一の教科であると理解して来た。

生徒達の清新で柔軟性に富む物の見方、感じ方を素直にのばし、個性豊かな造形的な能力を育てるようにしなければならない。だからその底に流れているものは自由と創造の精神である。つまり美術を通して人間性を養うことは、この自由と創造の精神を養うことにほかならない。深い所はともかく、一般的な理解を通してこれらの本質をえぐりだし、生徒がどんどん伸びて行くよう願って研究、努力をして来たつもりであったが……。

しかし、いざ実践になるとさまざまな壁にぶつかり、不安と焦燥の色濃い時間に終始した毎日のくり返しであったように思う。

教師の意図した指導上のねらいが、限られた時間の授業の中で、生徒に充分に正しく、はっきりとらえられないまま、なんとなく終ったり、又ねらいがあいまいで手だてに無理があったりするなどの授業の中からは、およそ自由でのびのびとした生徒の自主性は満足な形では育成してはくれないだろう。

このようなことは我々が、この教科だけは他教科とは別なのだという。ちっぽけな過信にすっかりよりかかったものだろうし、又見方をかえなければ逃避的で消極的な姿勢でもあったろう。

さて、そこで今までにあった指導書からとってならべかえたようなカリキュラムからきっぱりはなれて、なんとか学習内容が生徒のものになるような、効率ある指導計画を立てることから研究、実践を始めました。

- 生徒の造形能力の実態を知ること。
  （その手だて、方法はどんなものがあるだろう。）
- 生徒の実態からどんな教材をくみ立てたらよいか。
  （ねらいの明確化、学習要素の整頓。）

具体的には授業と提言の別紙に出しますので話し合いをしていただければ幸いです。

中学校２年

創造的彫塑学習の隘路

提言者　江川佳徳
苫小牧市立苫小牧和光中学校

中学校に於ける造形教育では、大きく分けて芸術性の強いものと創造性の強いものの二つに分類されると思うがその内容、ねらいは、いずれも、表現・鑑賞を通して創造的な人間形成を目指していかなければならないと思う。しかし、中学生の現段階では、対象物をありのまま、忠実に表現したいという欲求が強いと思われ、まずこれに伴う技術偏重の傾向が弊害になっている様に思う。

生徒が楽しく生き生きと活動し、しかも計画性を持って新しい形、新しい感動を求めて行ける授業にするにはある程度の抵抗感を乗り越えさせ、新しい材料経験をさせなければならないと思う。

その様な点から彫塑学習を取りあげてみた場合、絵画版画等の表現に対して、その表現材料はもちろん、技法上からの物のとらえ方等、大きな異なりがあり特に触覚が作品を左右することである。更に空間の関係等やや専門的な要素も加わってくるが、一年生の段階では、ともかく二年生頃になるとバランス、動勢、量感等が、たとえしっかりした理論づけはないにしてもある程度まで意識的に、追求されてこなければならないと思うが、実際、生徒は、容易に達し得ないのである。

更に、この種の作業に対しての設備も不備であり、特に作業場及び、水の不便さは、いかに生徒が、意欲を持ってしても、それに対して大きな障害になっている様な気がする。

しかし、過去の彫塑授業に於ては、材料に対する不慣れに、抵抗感も加わり、我々の求むべく結果は、得られなかったが、生徒に於ては、他教科では体験出来ない。自主的で、且つ、自由で楽しい時間であった様である。

しかし、生徒には、個性のいちじるしく異なる者、技術的にも異なる者等、種々雑多である。この様な生徒を、一様に、あるいは、個々に指導していくためには、生徒個々に対する見守りと励ましが必要であり、大人の技法や、物の見方等を、押しつけることなく自由で、しかも創造的活動時間にすることが第一であり、又、それに対する我々の計画、準備も更に改善していかなければならないものと思う。

中学校　年

〝美術科指導の考察〟

提言者　坊坂　博
苫小牧市立弥生中学校

本校の実態。

本校美術科における指導は相当以前より特別改善されないままに指導要領に基いてカリキュラムが作成されていた従って内容においては表現と鑑賞の二領域に大別し具体的には４領域の中でこの学校の特殊事情や地域性を考慮したカリキュラムが組まれていた。実際指導においては、ごく今まで行われている平凡なものでしかなく、美術科がもつ人間創造への道にはおよそ程遠く正直言って断片的な指導でしかあり得なかったと思う。勿論、その指導を通じて個々の生徒の創造的精神や情操を高め、更に人間として誰にも必要な造形的な感覚を養う使命感はどの美術教師にも共通なものであろう。然しながら、このことを具体的に子どもたちの指導の中に徹底した位置づけをもって、その純粋性を問うならば、その評価はまことに低いものでしかなかったかと反省している。

過去十数年の指導をくりかえした今尚、子どもたちが目を輝かせ生き生きと創造活動にとり組んでいる姿は、やがて望ましい人間像への姿へ発展するのであろうことを意識しつつも、それが全部でなかったことは、いなめない事実である。子どもの内に潜む創造性や高い人間性はどの子どもにも共通であり、子どもの実態や施設によってそれらが左右されるものではなく、それらを引出し、造りあげる教師の主体的構えによってこそ左右されるものであろう。

楽い造形連の指導の構築なる研究がこの春より始まって懸命にその域に近づこうと努力している。

本校では既に美術カリキュラムは２月に完成していたが研究始めの段階において、これら全面改訂を余儀なくされ今その検討に拍車をかけている。未だ研究不足でその全容は述べることはできないが、子どもが生活する時間の主なる学校の中に美術科指導の学年共通のテーマをかかげ、その目標達成のための学年のサブテーマから共体的容点を育成するための教材群を配列しようと考えた。

本学年がとりあげた「前庭をデザインしよう」は学校に生活する意義づけの上で、子どもたち自身がもっと親しみのある楽しい学びの場を個々の創造性を生かしそれがみんなのものとなるようなねらいをもっている。そうした一貫の流れは全学年共通意識のもとにおかれ、学年の発達段階や学習のミニマムを圧えた領域別教材配列を考慮している。然し乍ら事実上多くの問題が複層され今後の研究に待たねばならない。その為にも適正なる批判を乞いたい。

中学校３年

教材のつながりを考え領域をおさえ見通しをもつた指導の試み

提言者　片桐　勉
苫小牧市立啓北中学校

現代社会の変化と変革により教育内容の現代化をはからねばならない時期に来ていることは云う迄もない。

それは美術教育においても現代化をおし進めなければならないのは当然であろう。最近教材の構造化等の理論が我々の現場にも大きな影響を与えているが指導の構築にも多くの関連性があると考える。

そこで美術科の指導については教科性をより明確にし、より科学的に組み立て行かねばならないと思う。

さて本校美術科の目標は主体性をもった創造的な人間像をめざすのであり、本校教育目標であるところの前進する＝（積極性）自主的、意欲的な創造活動と、やり通す（探究性）＝自分なりに思考し造形活動の喜びを味うの二つの観点と美術科指導目標と関連させている。

生徒の実態を見ると、科学的に見る力に乏しく生徒自身の今おかれている地点から更に努力し、より深まりのある次の地点に進もうとする態度に劣る。

このようなことをふまえ今後の指導について考えねばならないのは自主的創造的な人間像をねらいとし美術科の指導の中で育てるためのねらいとし美術科の指導の中で育てるためのねらいを具体化し何をどう教えれば生徒が反応し与えられたものを意欲的に展開して行けるかを見通し、やがて学習経験が体系化され生徒が自信をもって精いっぱい授業に体当りして生きれることを望みとしたい。

指導過程ではねらいを明確とした組み立てが必要と考えるがこれが、構造化ではなかろうか、勿論他教科とは構造化を異にし最終的には人間形成をねらいとするのであって単なる表現技術のための構造化ではない。

以上の考えをもとにし本年４月から７月までを第１段階とし、教材の発展性順次性等を考え教材と教材とのかゝわり合いの中からどう転移する力を与えるかを実践を通して研究している現状である。過去の教材配列を見ると領域毎の羅列的な組み方であり、今の仕事が次の仕事とどんな関係にあり、今までの学習が今の学習のどこで生かされるのかが曖昧であったと考える。そこで指導の構築の本年度テーマにある〝新しい教材のとらえ方〟が生まれて来た訳だ。私共は版画を目標に各領域のバランスを考えて発展的な教材構成を４月から７月まで組み立てたと思っているのであるが多くの問題点も含んでいると考えている。

観察
イメージ化
思考
技術 技法 の構築のさせ方
たての関連
・ものの見方がわかる
・人がわかる
教材の羅列

（講演内容）

演題　造形教育における構造と過程

千葉大学教授　森　桂一

構造Structureということ

〝教材の精選とその構造化〟これは魅力的な流行語のように教育界でくりかえされている。造形美術に触れるものは誰しも明け暮れ、構成、構成という。一体何故構造化せねばならぬのか、また構成とはそんなに尊いことなのかと、その的確なる答えを、自分に向ってたづねつづけている。

指導要領改訂のことに触れて二年間に、いくたび教材の精選と系統化ということを討議したことかわからない。結果において何ほどもふるいおとすことができず、また堂々たる骨格構造がうちたてられたとも思えない。

自から絵筆をとりながら、何故こうした構成をとらねばならぬかと、絵以前のもの、背後のものと思いくらべるときさまで明確な答えが出来ないことさえある

構造というものは、建築のような静的なものには、比較的適確に位置づけられるが、人間の教育とか、芸術的表現のような動的なものには、そう易々と適応できない法則である。

たとえば心理学の領域でも、構成（造）心理学といって、意識の内容を内観し、要素分析をして適確な述語で、仔細に報告するという一派があるが、意識内容というものは、物的、静的だとして、機能心理学や作用心理学の強い批判を受けて衰えてしまったのである。

とにかく如何に困難であるにしても、この教育の構造を組みなおすという機会だとすれば、より有意義な組織とするために、目標、内容、方法等について論じぬいたつもりである。然し第一に美術意識というものが、甚だ多様で収拾がつかなかった。また時代的、歴史的人間観も実に区々であったし、現場の重大関心事である教育方法論については、一層複雑多岐で、到底平均値をサムアップするなどということはできなかった。

この間、私は二度の外遊で不本意な空白を作ったが、権威的と思われるリードやペシコの学説を対象的に引用したり諸外国教育家との意見交換の数々を報告したり、現行指導要領実践上の批判の分析結果をもとに、あれこれ討議もした。

中でも日本における国際会議で、アメリカ代表アンドリウス博士が、二十世紀の大欠陥は経済的安定を人類の究極目標の如くに思わしめたことで、更に重大な精神的自主性を挽回せねばならぬと叫んだこと。東京で客死したドイツのトリュンパー教授の説いた、ミューズ的規範、美術することこそ人格形成にそのままあてはまると説いたことなども強調した。

然し大かたの動向は、自然科学、消費文明のはなやかさに押されて、科学、合理、生産をめざす主知主義技術主義に傾きがちであった。私は美術教育が個性、主体性不在の技術教育に堕すことを憂え、いわゆる生活造形なるものも、美的な目標を軽視したりすればもはや美術教育の枠外のものであることを力説したのである。

私は持論として、美術教育は基本的に、表現と鑑賞それ自体で、価値の高い人間的活動であって、あえて他教科に追従すべきでないと説いてきた。特に現代アメリカ美学の代表者ムンローの説くように、鑑賞こそ究極目標で、表現は積極的鑑賞として、美術教育の第一段階であるという立場を支持したい。前人の審美眼を高めたいという理想に立てば、従来のように付加的な特設鑑賞ぐらいに止まってはなるまい。私は四回もオランダを訪れて、鑑賞教育の本質というものを感じとった。Contemplation観照、瞑想性、深い内的経験に到る段階をこそ憧がれるのである。

日常身辺のマンメードの物質社会に対しても、敏感さや批判力を養わねばならないが、現状の物質主義一辺倒のデザインを生のまま普通教育にとりいれたりしては、追従がせいぜいで批判力など養えるものではない。これはやゝ高度な美学、哲学等精神科学の価値基準に照合せねばならないことである。そこで私は美的直観ということを美術教育に期待したい。直観力こそ時に科学的ということの上に立つものであることを、私はしばしば経験するのである。

考えれば考えるほど国の基準として権威的な構造などというものは作れないとさえ感じ入った。しかし私は大学のカリキュラムを、長年の経験によって一応うちたてている。現場の教師方がそれぞれ年間計画を順序だて、教材間の接続関係articulationについて工夫研究される。それを構造という以外にあるまい。全国一律的な指導指針のどこをとくに強調し、どこを若干粗略にするかということこそ、構造の重大問題であろう。評価の観点ともなれば、それに各人の教育観が反映しないはずがない。これらの取捨選択はダイナミックなもので、決してスタテイクな構造図などに易々と現わせるものではあるまい。

過程Processということ

ここで私は美術教師もまた美術家も重大関心事である構想ということの心理過程について考えてみたいと思う。読んで字の如く想を構えることにちがいないが、その想とは、かたち（象）を心の中に想い浮かべること。心象imageを頭の中に凝集することである。外界のものの知覚像というものだけでなく、現実にはないものという心理もともなっている。心理学では想像力という。再生想像、創作想像が、制作活動の動機となることを考えると、広義の創造力ともいえるものである。

造形美術の領域では、まず美しいとか、興味を覚えるとか、価値づけられた視覚像というものが生れ、次に心象が凝集され、やがてそれを素に制作にかかるという心理過程をふむのである。これを見守る役割のものは、常に何に興味を感じ、どんなものを心の真に描き、どう現わすかの心理過程を観察しつづけねばならない。

従来の構想画によく見かけた、荒唐無稽な夢や、擬似的な未来都市を描いたものなどは首肯できないとして、心象は現存するものに限ることではない。目的性のない想像は低いのであって、心象の効用は自覚されていなければならないのである。また心象が単に主観的、個人的願望に止まってよいはずはない。現代社会の中の文化的な条件によってその価値が決められることはいうまでもない。

今日他の分野で創造性開発論だの、人間工学のプログラムなどが試みられて、伝統的な芸術教育に肉薄しようとしていることも、見おとしてはならないことと思う。何れにしても、構想力を支えるものは計画性である。そこで安易に表現をまとめさせるといった、従来の指導過剰を反省すべきであろう。重ねていう、何の為の構成なのか、と。

私はかねてカラーテレヴイジョンが、われわれの生きているうちに満足できる段階には到るまいと思っていた。ところが急速な進歩で色光再成ができるようになった。自然科学の進歩に畏敬を覚えると共に、画をかくわれわれが受像器の色調をコントロールするからこそ何とか快く見られる段階であるのである。

あらゆる種類のコンピューターが、一面では人間の能力を上廻る働きを示し始めた。ただ機械が心理すなわち感情や自由意志をもつということは、永久に不可能ではなかろうか。電子頭脳は論理的な問題を解決するとき驚くべき能力を発揮するが、他面では天才どころか白痴程度の頭脳しか示さない場合もある。機械は矛盾のない厳格さを特徴とするだけに、反面それが白痴的な結果をもたらすことさえあるのである。

子どもの頭脳は生きた細胞でできているが、機械の記憶装置は生命をもっていない。はたして機械はものを考えるということが出来るようになるだろうか。数学や電子工学の学者たちは、コンピューターの中でも、人間の頭脳の中で起ると同様の過程があるのだから機械の働きの研究をつきつめていけば、人間の精神活動のプロセスがわかり、やがて一層進んだコンピューターを創り出すことが出来るといっている。

一体人間は自分のこと、つまり自分の感覚、感情、思考等の心理活動について、どのくらい知っているのであろうか。人間は外部の世界については、宇宙のことさえもかなり多くを知っているのに、自分の内面の世界については、余りにも知らな過ぎるのである。この人間の心理の過程を知る学問は、未だ発達の初段階にあるとしか思えない。ソクラテスの〝己れを知れ〟という言葉を今更の如くに想い浮かべる。自己認識とは、認識全体の中でも、最も重要な部分であるのである。

私はこの際、科学的といっても人文科学的に、この教育のエンピリカル実学的な研究が進められることを期待したいのである。すなわち造形的表現活動の観察にもとずく夥しい心理過程の実例をあげて、その間に同一性の立証を積まねばならない。このことをidentificationという。構造とは他分野の知識にも通ずる。この同一性立証がないと成立しないものである。

指導要領改訂について

カントもリードも西欧芸術を二分して快的芸術、美的芸術といっている。前者はコンフォート快感、慰安に止まるもので、後者は人間的歓喜デライトネスに到る。生の自覚、認識の最高方式としている。私は終始なぜ教師がもっと美術に自信がもてないのかと考えつづけた。美術の前段階であるから科名を造形にという主張には同調できなかった。

今は亡きリード卿に、日本のこの教育の動向をかき送った手紙に答えて、卿は現代社会の欠陥は多くの子どもの想像力と感情を抑圧し、宇宙の秩序に内在する優美、リズム、美的比例の原理を軽視し、論理的、合理的思考に傾き過ぎた結果だと、その持論をくりかえしてきた。

情操のための美術教育という言葉を、安易に使い過ぎて陳腐にきこえることはたしかであるが、念のためにここでくりかえせば、情操は情緒の如く一時的激情でなく、持続的感情の状態で、愛情と嫌悪にわかれ、自負、虚栄、野心、利己心といったものになるのである。また自尊的情操となって、特定人への尊敬とか軽蔑ともなる。いろいろな目標のか

かげ方があろうが、私は美術教育にたづさわるものは、独立不羈性という自負心とか、愛情という情操など、本願とすべきではなかろうかと思う。

この度の改訂で問題にしたことは、従来幼、小が「絵をかいたり、物を作ったり」という学習構造的な表わし方、中学が「印象や構想による」といった指導方法的な表わし方をし、高校、大学では絵画、彫刻、工芸といったりして、学校間に一貫性がないということであった。こんど小、中学校が、絵画、彫刻、デザイン、工作、鑑賞という現わし方に変えたことは、一歩前進であるかもしれない。

中学では何よりも時間数と工芸の復活が喜こばしいことであり、整理、統合もベターになったように思うが、小学校の方は低学年のデザインや鑑賞、ことにそのパーセンテージなどには問題があるように思う。

参考のために私個人の提出した小学校の目標案を記してみる。これは前指導要領の五項目を三項目に凝集し、学問的にもおかしくないよう、また英訳もしてどこの国へも通ずるように苦心したものであるが。

Ⅰ 目　標 target

美術的な表現や鑑賞を通して、欲求や興味を満足させ、情緒の安定、情操の陶冶をはかる。

Ⅱ 目　的 purpose

創造的な表現活動を通し、造形的な感覚を発達させ、美的秩序を感受、理解する能力を伸ばす。

Ⅲ 機　能 function

造形的な表現活動を通して、美と用の関係に気づかせ、技術を尊び、造形能力を身近な生活に生かす態度を養う

おわりに

目まぐるしく変転する社会現象から、直接的にとり入れる片々たる試みエキスペリメントのくりかえしでは、この教育の構造は成り立たない。私はひとと美術教育ばかりでなく、河川の氾濫にもたとえたいような現代文明に眩惑されることを戒しめ、河の底にあるもう一つの流れのようなものを探求して、普通教育の美術の体系を立てねばならないと思う。尤もそうした根源的なものを捨象して、構造が成立したら、この教育はおしまいだということになるかも知れない。構造は骨式として固定化させてはならない。間断なく過程を見守るという、ダイナミックな配慮が不可欠的に要請される。

諸外国でも、美術のカリキュラムには教権的な構造が弱いようにいわれている。それは、主題のシークエンス続き順が、教師の独断的選択によるように見えるからであろう。しかし熟達した教師が、既往の経験を基として選択し、配列したカリキュラムには、妥当に活動の水準（レベル）を示している。

結論的に、何れの国でもこの教育の受容態勢、アート学習の準備性というものが、充分につかめていないという段階にあるようである。然し概して望ましい美術教育は、児童生徒を知覚と象徴化の操作に捲きこむ inuolve 状態と推定することができる。これらを深く観察することによって、子どもをとりまく社会的動因を学びとることもできるし、教師の指導の多様性ということを明かにすることも出来よう。

―― 閉　会　式　7月31日（水）（15・00～15・20）――

○開会のことば

○あ い さ つ　　第18回全道造形教育研究大会長　　赤　石　武　士

○次期開催地区代表あいさつ

○閉会のことば

第18回　全道造形教育研究大会役員一覧表

参　与

	野村英夫（道連盟顧問）		
	新妻　清（道連盟顧問）	名誉大会委員長	森田　勇（苫小牧教育委員長）
大会副委員長	清水石政雄（苫小牧市造形研会長）	大会委員長	赤石武士（道連盟委員長）
大会副委員長	大友一夫（苫小牧市造形研副会長）	大会副委員長	遠藤満男（苫小牧市造形副会長）
運営委員	清水石政雄（苫小牧市造形研会長）	大会副委員長	工藤勇二（苫小牧市教委教育次長）
運営委員	渡辺　正（苫小牧市教委指導主事）	運営委員	工藤勇二（苫小牧市教委教育次長）
運営委員	渋谷敏昭（苫小牧市教委学務係長）	運営委員	田中吉雄（苫小牧東小学校長）
運営委員	大友一夫（苫小牧市造形研副会長）	運営委員	遠藤満男（苫小牧市造形研副会長）
運営委員	片桐　勉（道連盟苫小牧地区委員）	運営委員	池本良三（道連盟苫小牧地区委員）
運営委員	浦島満寿夫（苫小牧私立幼稚園代表）	運営委員	有坂了源（苫小牧市立幼稚園長）
運営委員	河田義治（苫小牧市立中学校長代表）	運営委員	近江謙三（苫小牧市小学校長代表）

事務局

局長	池本良三（東小）	受付	一条　将（東小）
次長	内潟光尚（若草小）		宮森俊治（東小）
	船着昭弘（東小）		矢作　実（東小）
	鹿毛正三（啓北中）		本山雅朗（東小）
	清野恒夫（緑小）		神谷恒夫（東小）
	大友一夫（沼中）		前田一郎（東小）
	日野常子（市立幼稚園）		煤谷孝司（東小）
	金子　正（西小）	接待	松田初枝（東小）
	片桐　勉（啓北中）		安部美穂子（東小）
	坊坂　博（弥生中）		板谷美智子（東小）
	二階堂芳夫（東小）		須貝ユキ（東小）
		放送	成沢喜久雄（東小）
			石坂迪郎（東小）
		会場作製	小山田明夫（東小）
			小林末吉（東小）
			樋口　満（東小）
			金子春太郎（東小）
		売店	高広照雄（東小）
		PTA	遠山隆三郎（東小）
			中村　猛（東小）
		児童係	新谷昭一（東小）
			伊藤秀雄（東小）
			沢又隆夫（東小）
		警備	床司勝興（東小）
			石川千恵子（東小）
			南部康子（東小）

庶務会計

部長	船着昭弘（東小）
	原田省吾（東中）
	木村昭夫（勇払小）
	田中千恵子（美園小）
	佐藤嘉子（東小）
	東頭　茂（東小）

渉外

部長	鹿毛正三（啓北中）
	佐藤芳夫（錦岡小）
	和田　禰（東中）
	佐藤軍治（東中）
	熊谷時男（東中）
	高橋春之（東中）
	小笠原幸雄（東中）

研究

部長	大友一夫（沼中）
幼稚園部長	日野常子（市立幼稚園）
小学校部長	金子　正（西小）
中学校部長	片桐　勉（啓北中）
授業	藤波明子（いずみ幼稚園）
	日野常子（市立幼稚園）
	佐藤嘉子（東小）
	中村真智子（大成小）
	内潟光尚（若草小）
	船着昭弘（東小）
	金子京子（東小）
	清野恒夫（緑小）
	岡崎光輝（大成小）
	和田　弘（東小）

事業

部長	清野恒夫（緑小）
	川畑盛邦（和光中）
	佐藤幹夫（清水小）
	米川幸雄（東小）
	谷口貞雄（東小）
	松原義則（東小）
	多羅尾又男（若草小）
	井川克己（東中）
	稲見　勉（西小）

会場

部長	二階堂芳夫（東小）

葛西富佐子（哲北中）
板谷宗樹（東中）
杉本司（東中）
矢本麗一（若草小）
松原繁（若草小）
大石富士雄（若草小）
新井栄（若草小）
岸本不五男（若草小）
佐藤昌昭（沼の端小）
岡村文夫（沼の端小）
山口鎮雄（西小）
梅津博生（西小）
斉藤美地子（西小）
土田利隆（北光小）
福島正義（美園小）
米川志ん（美園小）
大場三夫（美園小）
白石忠津男（美園小）
貝出邦彦（緑小）
高木良子（緑小）
植村良平（大成小）
吉田京子（大成小）
高田稔（大成小）
三戸部浩二（大成小）
佐々木哲夫（大成小）
仲田俊二（大成小）
関坂和夫（和光中）
奈良寛重（和光中）
吉田蔦江（和光中）
平岩留治（勇払中）
藤田秀樹（勇払中）
滝進（勇払中）
勝留蔵（勇払中）

提言

千葉哲（西小）
小岩俊（大成小）
長沢晃（西小）
鈴木誠治（東小）
福井宏（東中）
板東軍治（光洋中）
川畑盛邦（和光中）
沼田卓（弥生中）
三上保（啓北中）
松浦くに（市立幼稚園）
内潟光尚（若草小）
船着昭弘（東小）
白井禎二（緑小）
佐藤幹夫（清水小）
小岩俊（大成小）
金子正（西小）
原田省吾（東中）
江川佳徳（和光中）
坊坂博（弥生中）
片桐勉（啓北中）

記録

部長　坊坂博（弥生中）
沢又暢子（緑小）
道見幸夫（東小）
中村駿（東小）
菊地啓喜（東小）
佐藤勲（東小）
薄井豊彦（東小）
中平満（弥生中）
山川修（弥生中）
清水貴子（弥生中）
馬場俊雄（啓北中）

祝　全道造形教育研究大会

○王子製紙ＫＫ苫小牧工場
○日本軽金属ＫＫ苫小牧工場
○岩倉組
○松本鉄工ＫＫ
○日之出化学工業ＫＫ
○坂木材工業ＫＫ
○国策パルプＫＫ勇払工場
○苫小牧栗林運輸ＫＫ
○菱中興業ＫＫ
○日本ヒューム管ＫＫ勇払工場
○岩倉組土建ＫＫ
○苫小牧阜頭株式会社
○苫小牧港開発ＫＫ北海道事業所
○王子木材内火曜会
○丸彦渡辺建設ＫＫ苫小牧出張所
○苫小牧東小学校ＰＴＡ

みんなの楽しいファミリーランド
ウトナイ観光ホテル
苫小牧市ウトナイ湖畔　TEL 代表 2-5181

旅館・グリル
富士館
苫小牧市表町15　TEL 代表 2-3161

大三旅館
苫小牧市表町3　TEL 代表 2-2101

さくら

SAKURA

さくら50年の歴史は美術教育の歴史です!!
大正14年世界で始めてクレパスを開発，財団法人教育美術振興会の設立，戦後さくらマット水彩を開発し常に美術教育の振興に貢献してまいりました。
今時の水彩画の普及に伴いさくらマット水彩は圧倒的な人気を拍しております。伝統と技術が超微粒子の顔料を生み出し，ここに初めて，透明にも不透明にも使用できる水彩絵具の決定版を創りだしたからです。

新発売!!

クレパス本舗　株式会社桜商会

文部省教材基準該当品

クレヨン・クレパス・版画絵具・粉絵具・サインペン・カラーインキ・ペンタッチ
ポスターマーカー・ペンボンド

山川　修（弥生中）
清水貴子（弥生中）
馬場俊雄（啓北中）
藤田秀樹（勇払中）
滝　進（勇払中）
勝留蔵（勇払中）

事務用機械・文具・紙
書籍・雑誌・参考書　専門店

苫小牧市駅前

IMISHIMA

君島書店

TEL 事務機部②6511・②3907書籍部②6512

お中元にツルマルの
優秀品をお選び下さい

みんなの楽しいファミリーランド

UTONAI

ウトナイ観光ホテル

苫小牧市ウトナイ湖畔　TEL 代表 2-5181

旅館．グリル

FUJIKAN

富士館

苫小牧市表町15　TEL 代表 2-3161

大三旅館

苫小牧市表町3　TEL 代表 2-2101

教材のことなら　お任せ下さい。

株式会社 グリンクロス

本　店　函館市千代ヶ岱町　TEL ⑤1 5127～9
室蘭店　室蘭市宮の森町4の2　TEL ④3932
苫小牧店　苫小牧市山手町64　TEL ③8444
釧路店　釧路市大川町68　TEL ④3364
旭川店　旭川市9条11丁目右8　TEL ㉓4832

・導入のくふう
・わかりやすい文章
・美しい印刷

東京書籍株式会社 Tosyo

本　社　東京都北区堀船1-23-31　(919) 1181
支　社　札幌市南1西3(札石ビル)　(23) 8987
出張所　函館市時任町35の22　(51) 1811

洋食と喫茶

株式会社 第一洋食店

苫小牧市錦町(駅通り)
電話代表 ②6427番

書籍・雑誌・文具

板東書店

苫小牧市錦町
電話 ②3070番

流行のＤＤＢ調にもおちいらず
有名なライト調にも流されず
今をときめく資生堂調にもよろめかず
あいかわらずヘタくそな字をならべるだけの
困った菓子屋。

でも
お菓子のおいしさでは
どこにもまけないつもりです。

若いあなたと
若いつもりでいる人たちの
洋菓子店

東京書籍株式会社 Tosyo

本　社　東京都北区堀船1・23・31　(919) 1181
支　社　札幌市南1西3(札石ビル)　(23) 8987
出張所　函館市時任町35の22　(51) 1811